

第2号様式（第3関係）

第2回豊山町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

1 開催日時

平成28年1月20日（水）午前10時から午前10時40分まで

2 開催場所

会議室1

3 出席者

（1） 委員

高橋 真委員（愛知学泉大学現代マネジメント学部教授）

小寺洋夫委員（名古屋空港ビルディング株式会社代表取締役社長）

糟谷芳澄委員（株式会社三菱東京UFJ銀行小牧支店長）

（代理 日高淳司株式会社三菱東京UFJ銀行小牧支店副支店長）

野島伸司委員（スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社取締役技術戦略本部長）

（代理 中納久史スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社技術戦略本部技術部ソリューション営業課長）

船橋和志委員（株式会社小牧サービス代表取締役）

中山 拓委員（学校法人豊山学園 園長）

奥本哲巳委員（三菱重工労働組合名古屋航空宇宙システム製作所支部副委員長）

櫛田和裕委員（尾張中央農業協同組合豊場支店長）

（2） 欠席者

小島有里委員（豊山町まちづくりサポーター）

（3） 事務局

理事 竹澤功

総務部長 安藤光男

総務課長 小川徹也

総務課企画財政・情報係長 井上武

総務課企画財政・情報係主査 牧野礼男

4 議題

人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

5 会議資料

資料1 豊山町人口ビジョン 概要

資料2 豊山町まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要

資料3 第1回会議における委員からの意見要旨と総合戦略への反映案

資料4 豊山町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

6 議事内容

(1) 委員長挨拶

行政の戦略は公的制約、予算的制約がある中で最善最良のものを選択して進めていくのが責務だと思う。忌憚のないご意見を頂きたいのでよろしくお願いします。

(2) 議題

① まち・ひと・しごと創生総合戦略について

人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

事務局：説明（資料1～4）

委員長：前回の会議で出た意見などの補足も含めて委員の皆様にご意見をお願いします。

A委員：前回から変わった点を確認した。MR Jを知っている子どもは実に少ない。産業と教育で協力できるとよいと思った。豊山に住んでいることを意識できるような教育内容がよい。地元の郷土愛を育むのは大事なことだと思う。

委員長：前回会議の意見に対してはご考慮いただけたようである。次に何をどうしていくか。居注意識結果は、「住み続けたい」という人が55%だが、「町外に移りたい」という人が14.6%いる。この人々を町に留める方策を考えないといけないと思う。

B委員：航空館b o o nは平日でも若い親子連れなどの来訪者があり、この場所は使える施設だと思った。より若い方へPRしていくのが良いと思うが、ご年配の方でも、航空機の飛行している写真を撮っているのを見て、こんな利用の仕方もあるのかと思った。航空館b o o nとW i - F i環境を整え、その次の仕掛けを考えていくべきだろう。それによって目標値の来館者5万人も見えてくると思う。

委員長：未婚率の上昇が気になっている。出会いの場が少ないのか、ライフスタイルの問題か、個人の価値観によるものでもある。

C委員：航空館b o o nは初めて知った。学校との連携で学習教材として使ってもらう等の方法があると思った。雇用の問題になるが、現案の「K P I」について、事業所数に

なっているが、雇用に直接つながる指標のほうがよいのではないか。人口増を目指すなら、規模の大きい工場、航空関連の工場などを呼び込めないだろうか。小さい事業所がたくさんできて雇用に結びつきにくく、生活の安定にはつながりにくいだろう。

前回会議のなかで、交通アクセスの話があったと思う。当地の雇用は外から出勤する人も増えるので当地の人口増につながらないが、夜間人口と昼間人口の見かたもあり、豊山から出勤する人、豊山の企業にも名古屋などから出勤してくる人、双方の行き来があるとすれば、整備もしやすいのではないか。その辺りからも、雇用に重視してもらいたい。

D委員：豊山町は、特色としてはたくさんあると思う。いわば、食材はたくさんあるわけで、どう料理するのが行政の役割だと思う。豊山にふさわしいまちのあり方を考えたい。ただ人が増えればいい話でもない。

E委員：施策展開のうえで、町全体としてどこが企業を誘致する場所で、どこが居住地になるかといったことが決まっているか。まとまりがないと、今後増えていく高齢者などが生活に困ることも出てくるのではないか。

事務局：計画としては、戦略とは別に「都市計画マスタープラン」というなかに、工業の地域や居住する地域ということの位置づけがある。豊山町は面積の狭い町であるので、中小の事業所数も重視している。

E委員：30年ほど前なら、飛行機のエンジンを回していれば、幼稚園の子が見に来ている、というようなこともざらにあった。しかし、現在は防衛省の考え方が変わり、あまり公開しないことになってきている。一方、「MR J」は民間機なので、工場見学などできるよう検討している。愛知県も空港の横に展示施設の建設を検討しているという話だが、豊山町との連携はどのようになっているのか。

事務局：県の構想は、総合戦略にも位置づけており、連携を図っていく。町では、航空館 b o o n のシミュレーターを新しくするなど、整備していく。県の展示施設はエアポートウォークの駐車場でできる予定で、三菱新工場、航空館 b o o n もあわせて、航空のフィールドミュージアムとして新たな観光資源としていこうと考えている。

E委員：人を呼びこみ、住む人を増やしていくために、やはり交通アクセスとしてバスを増やすだけでは不十分ではないか。国・県を巻き込んで、鉄道まで考えないと、人が住むようになるまでは不十分だと思う。近隣の自治体の協力だけでも難しいだろう。国・県、企業に至る一枚岩でまちの将来を考えるべきではないか。市町村だけで考えていても、ちぐはぐな結果になる気がする。確実な成果をあげるには、やはり県や国にも考えてもらう必要があるだろう。

事務局：資料として豊山町の公共交通マップをお配りしたが、中に町内のバス路線図がある。名古屋空港の利用者増、MR J 工場の従業員の利用という見込みもふまえ、増便や

路線の増強などについて関係機関に要望していく予定もある。

E委員：以前、豊山町で500円で結婚相手を紹介してくれるという企画があり、当方の社員がお世話になったことがあるが、まだやっているのか。

事務局：10～20年前に交付金の活用による企画があったが、一度きりのものである。

F委員：テレビで「住みたいまちNo.1」といった企画で飛島村が上位に入っていた。そういった他自治体との意見交換などはしているのか。何か参考になるのではないか。

事務局：飛島村と直接意見交換の場をもったことはない。ただ、名古屋市を中心とした「尾張名古屋共和国」といわれる地域の市町村、空港近隣の2市1町、西春日井地区の自治体、小牧市・岩倉市・大口町・扶桑町の2市3町との協議会、研究会などは設けられている。そういった面での交流はスムーズにできている。

委員長：その他、意見がなければこれにて本会議を終了としたい。

3 その他

事務局：本会議の意見をふまえた修正版を後にお送りしたい。内容の了承が得られた段階で、次にパブリックコメントを実施したい。その後、本年度内（2～3月）に最後の会議を行いたいので、日程調整等またよろしく願います。